



カナダからの No.8 風にのせて

英語指導助手 / リンズィー・マクドナルド

Partying it up: Egyptian style

Last month, in the tales of my travels, I mentioned attendance at a baby shower. Which was followed up by a lovely explanation on baby showers, if I do say so myself. *winks* Of course, that raises the question of how an Egyptian baby shower is different from the type that I'm used to – the small parties thrown in someone's living room.

The baby shower in Egypt was huge. The whole yard behind the house was covered in a tent-like manner by light, diaphanous white cloths. There were balloons everywhere, including floating in the swimming pool. At one end of the yard, there was a long buffet table covered in meats, cheeses, breads, salads, fish and desserts. There was also a small booth catered by a local fancy Japanese-Brazilian fusion restaurant. Dozens of people were in attendance. What I found as most odd was despite the fact that it was a baby shower, the baby wasn't present. She did appear at one point briefly at which time people danced around with her, loud music was played, people carried around candles and screamed and cheered. It was sensory overload for me; I can't imagine how it would have been for a one month old.

The baby shower was really different from anything I had ever experienced. I think I'd like to learn more about current Egyptian culture and customs.

エジプト流ベビーシャワー（出産祝い）

3月号で、エジプト旅行中にベビーシャワーに招かれた話をしました。豆知識のコーナーでは、一般的な北米のベビーシャワーの様子が取り上げられていましたね。私を知るベビーシャワーは、どこのお宅の居間でも開かれるこじんまりとしたパーティーです。一方、エジプトのパーティーは規模が違いました。

家の裏庭全体が軽い透明の白布でテントのように覆われていました。そしてそこら中にバルーンが上がり、プールにも風船が浮いています。庭の片側に長いビュッフェ（※）のテーブルが置かれ、肉、チーズ、サラダ、魚、デザートがどっさり。さらに、地元のおしゃれなブラジル日本料理の店が小さいブースを構えていました。出席者もたくさんいます。でも一番変わっている、と思ったのは主役の赤ちゃんの不在です。ほんの一瞬はいたのですが、その時は周りでも人が踊り、音楽が大音量で演奏され、キャンドルを持った人たちが歓声を上げていました。私にとっては耐え難い感じでしたが、まして生後1カ月の赤ちゃんにはどんな感じがしたかと思います。とにかく今までに経験したベビーシャワーとは違いました。もっとエジプトの現代文化や習慣を知りたい、という思いを持ちました。

（訳：宮地晶子）

【ちょっと豆知識】

「ビュッフェ」といえば好みのものを取る食事スタイルですが、「バイキング」という言葉のほうに馴染みがありますね。沖縄ではアメリカ軍統治のため早くから「バフエ」という言葉を使っていたそうです。欧米ではbuffet（バフエまたはバフエイ）と発音します。バイキングは通じません。「海賊?」と思われます。食べ放題がいい場合は「All-You-Can-Eat」（オールユーキャンイート）という看板のお店を探しましょう。ラスベガスならカジノ客目当ての無料（ただ）同然でボリューム満点のレストランが並び放題です。

道内の公立高校入試問題は比較的やさしく、昨年までは「うっかりミス」のわずか1点が合否を分けることがありました。そこで今年から、一部高校では、国語、英語、数学主要3教科で難易度の高い問題を出すことになりました。

旭川でこの裁量問題を導入実施したのは、旭東、旭西、旭北、旭凌雲の4高校です。3月4日、その入試が行われました。

どんな問題が出されるのかは当日まで分かりませんが、塾などでも予想問題を作っていると思います。フタを開けると、英語の裁量問題は500語ほどの長文の読み取りでした。

旭川で街頭インタビューに答えている中学生の姿を見ると、「問題を見た瞬間に投げた」という生徒もいたようです。

それもそのはず。中学校で読む英文の量は実に少な

英語教育指導員 宮地晶子の
エイゴのマナビカタ

第59回
高校入試一裁量問題

いのです。3年生になつてさえ、レッスン1つ分の英語は200語程度しかありません。しかもそれを7、8時間もかけて学習します。3年間を通して、教科書全体でたかだか2千語ほどの学習量にしかならないのです。

ところが入試では、40分間ほどの間に、その半量に当たる1千語の長文に立ち向かわなければなりません。しかも裁量問題は、さらにその1・2倍の量です。

英語を英語のまま読み取ることが出来る力を要求されてきたのです。

授業中にそのための訓練ができるのが理想です。でも如何せん、授業時間が足りない。この補いとして、英語検定試験用の対策のように長文を読んだり、多読をしたり、という活動が必要

1月に参加した研修で、尊敬している先輩の先生がこう言っていました。

「子供のために、と保護者が塾や家庭教師に出す費用は3年間で55万円にもなる。それもこれもすべて内申点と高校入試のためだ。教師はそれに応える授業をしているのか」と。入試制度に文句を言っても始まりません。どんな球でも打ち返せるような英語力を目指したいものです。